

第6回道南いさりび鉄道沿線地域協議会 議事録

日時：令和6年7月8日（月）15:00～15:40

場所：函館北洋ビル 9階会議室

（開会挨拶）

《齋藤局長（道）》

- ・ 川越社長をはじめとする社員の皆様におかれては、地域に根ざした鉄道事業者として、日々の安全運行にご尽力いただいていることに、深く敬意を表する。また、沿線の皆様におかれては、鉄道事業を支えていく上で必要な役割を担っていただいていることに、重ねて御礼を申し上げます。
- ・ さて、昨年11月に開催した協議会において会社から示された第2次経営計画の方向性を踏まえて、本年4月に、書面開催ではあるがその方向性に対する基本方針の整理に至っている。
- ・ この基本方針を踏まえ、これまで道と沿線市町では、会社との検討を重ねてきたところであるが、本日の会議では、会社から第2次経営計画の骨子をお示しいただいて、その内容を協議いただくほか、会社の経営に関するご意見も聴取させていただくこととしている。幅広く皆様と意見交換を行いたいと考えているので、よろしく願います。
- ・ 経営に関する具体的な検討については、利用促進による収入の増加を図っていくことが、第2次経営計画を策定する上で重要。先日、テレビ番組でいさりび鉄道における地域の特色あふれる企画が放送されていたが、まだまだいさりび鉄道は地域を含めて色々な方々の期待に応えることができる鉄道会社と考えている。改めて、川越社長を含めて会社の皆様には創意工夫あふれる利用促進に精一杯、取り組んでいただきたい。我々も最大限に協力するが、2市1町の皆様にも重ねて利用促進の取組について願います。

1 議題

（1）道南いさりび鉄道 第2次経営計画（骨子）について

資料に基づき、川越社長（道南いさりび鉄道）から説明。

《齋藤局長（道）》

- ・ いさりび鉄道よりご説明のあった第2次経営計画の骨子案について、協議会としての考え方を確認したいと考えている。
- ・ まず、道としての意見を述べさせていただくと、会社からの説明にもあったとおり、道南いさりび鉄道は、開業以来、沿線市町の地域交通としての役割を担っていることに加え、観光列車の運行などを通じて、道南地域の観光振興にも大きく寄与しております。さらに、北海道と本州を結ぶ貨物列車が走行する線路を維持することで、道民生活を支えているなど、多様な役割を果たしているところ。この点は、沿線の皆様の共通認識と考えている。
- ・ 一方で、会社の経営は非常に厳しく、解決が難しい課題がありながらも、経営計画の策定

にあたり、現実的な課題を直視し、鉄道施設・設備の老朽化に伴う設備投資の増加、人材の確保や車両の老朽化など、関係者が方向性を一つにしながらか対応をしていく必要があると、改めて認識。

- ・ 今般、会社は第2次経営計画の骨子案を作成し、会社の決意を表す経営理念と、それを実現するための経営目標が示されたところ。
- ・ 今後、骨子案に記載された課題への対応策や、収支予測とその協議の経過を、地域の方々にも目に見える形にしながらか検討されていくこととなるが、道としては、会社が示す経営理念や経営目標、重点的な取組等を踏まえて、更なる収支改善等の検討、鉄道の安全・安定運行を担保するための資金の確保、さらには、プロパー社員の確保に向けた方策などについて、沿線市町を含めた関係者と、具体的な検討を進めていく必要があると考えているところ。
- ・ 引き続き、こうした議論を重ねながら、より具体的な対応を図っていきたい。

《佐藤副市長（函館市）》

- ・ 道南いさりび鉄道は、これまで通勤・通学等、沿線住民の皆様の日常生活を支えていただいているほか、道南地域の観光振興や北海道・本州間の物流ネットワークの一部として、重要な役割を担っていただいている。今後も引き続き、こうした役割、使命を果たしていただくことが、地域にとっての有益性も含めて大変重要なことと認識している。
- ・ 今回の骨子案では、人口減少の進行に伴う運輸収入の減少や、施設・設備の老朽化に伴う設備投資の増加、社員のプロパー化など、人材・体制面などが課題として挙げられている。
- ・ これらの課題に対する対応策の検討はもとより、安全かつ安定的な運行が確保されることが何より重要で、大前提であり、こうしたことをベースに計画の策定作業を進めていただきたい。
- ・ 市としては、観光客が回復している中、本市の観光ブランド力や競争力を高めていく必要があると認識しており、市の実施するプロモーションやフィルムコミッション機能を十分に発揮して、道南圏やいさりび鉄道の魅力を発信するなど、沿線自治体とも協力をしながら、観光客などに乗って楽しい、駅に降りても楽しいと実感していただける地域となるよう、広域周遊観光の推進に取り組んでいきたい。
- ・ 協議会としても、北海道をはじめ北斗市・木古内町と連携を深めながら、引き続きいさりび鉄道の利用促進、収支改善の方策等について協議してまいりたい。

《工藤副市長（北斗市）》

- ・ 骨子案について異論はないので、今後、成案に向けて進めていただくようお願いする。
- ・ 利用促進について、事業収支は、北海道より設備投資への積極的なご支援をいただいた効果による令和5年度の事業年度を除いて、実質的な赤字が増加している状況。今後とも、利用促進策が重要であり、新型コロナ後、人流が戻りつつあることを踏まえると、地域の各特性を生かした取組に加えて、JRから経営分離されたこの三セク鉄道への理解をより深めていただくとともに、PR効果に即効性のある放送メディアに取り上げていただくよう、効果的なアプローチも行っていくべきではと感じている。

- ・ 人材確保については、計画策定において、鉄道輸送の安全性を最優先とするためにも、プロパー化を計画的に進めるためにも、働く側の視点に立った具体性のある内容をどこまで踏み込んで計画に盛り込むべきかを議論し、取組を進めなければならない状況にあると認識。
- ・ 最後に今後のスケジュールについて、協議会を構成する各主体との連携は勿論であるが、路線の6割強を占める北斗市としては、地域の重要な公共交通に関する第2次経営計画について、市議会とも十分に議論する時間を確保する必要があることもご理解いただき進めていただくようお願いする。

《羽沢副町長（木古内町）》

- ・ 当町の道南いさりび鉄道の利用者は、通学の中高生が多いのが実態。そのほか通勤・通院等の沿線住民の日常利用、新幹線からの二次交通が挙げられる。観光列車「ながまれ海峡号」の運行などは、道南地域の観光振興にも寄与していると認識。また、最近の報道でバス運転手の減少・減便が相当あり、函館バスにおいても例外ではなく減便等が実施されており、町内でも相当、不安の声がある状況。そうした中で道南いさりび鉄道の重要性は非常に高まっていると感じている。
- ・ 今回の骨子案では、人口減少の進行に伴う将来的な運輸収入の減少や、施設・設備の老朽化に伴う設備投資の増加、社員のプロパー化の推進と人材育成の必要性などが課題として挙げられているが、特に人材育成の前段の人材確保が様々な分野で課題となっている。「鉄道輸送の安全性を最優先」と「人材の確保」は切り離せない問題でもあるため、当町としても協力できることがあれば協力したい。
- ・ 協議会としても、北海道をはじめ函館市・北斗市と連携を深めるのは当然として、経営状況に応じた収支改善の方策や利用促進策等についてしっかりと協議していきたい。

《斎藤局長（道）》

- ・ ただいまご発言いただいた各市町のご意見について、骨子案に記載されているいさりび鉄道が地域に果たしてきた役割や今後の方向性については、概ね尊重していただいたと認識。こうした意見を踏まえ、各課題の解決に向けた対応策に関して、引き続き検討を進めていくこととし、協議会として骨子案を了承したいと考えているが、よろしいか。

（異議等無し）

- ・ それでは協議会として骨子案を正式に了承することとしたい。
- ・ 続いて、会社からご発言いただけるとのことなので、よろしく願います。

《川越社長（道南いさりび鉄道）》

- ・ 当社から示した骨子案をご了承いただき、感謝申し上げます。第2次経営計画の策定に向けて、北海道や沿線市町をはじめとする関係者の皆様とご相談しながら、収支改善に向けた取組や数値目標なども含めて、具体的な検討を進めさせていただく。今後の検討にあたり、せ

っかくの機会なので、これからの会社が目指す姿について、一言、述べさせていただきます。

- ・ 当社は、引き続き、地域鉄道と物流基盤という2つの大きな使命をしっかりと果たしていく所存であり、その思いを経営理念として、「地域を走り 地域を結ぶ鉄道として くらしを支え 地域とともに歩みます」としたが、そのためには、会社、そして社員一人ひとりが成長し、自立していくことが何よりも重要であると考えている。
- ・ 会社としての「成長」のためには、まずは経営目標の1「鉄道輸送の安全性を最優先とすること」が土台となる。そのためには、社員がそれぞれの業務において、経験を重ね、着実に技術やノウハウを身につけ、成長していくことが必要。そして、経営目標の2「沿線地域の生活路線としての利用実態に即した利便性確保と更なる利用促進に努める」ことが重要であり、社員が一丸となって、地域に根ざした鉄道会社として親しみを持ってご利用いただけるよう、地域の皆様とともに歩んでまいらる。
- ・ 会社として「自立」していくためには、経営目標の3「簡素で効率的・機能的な組織体制のもと経営の安定化をめざすこと」が不可欠であり、これまではJR北海道様やJR貨物様から出向いただいた皆様を中心となって当社の運営にあたってきたが、将来的には、プロパー社員が中心となった事業の運営を目指してまいらる。
- ・ 当社は設立以来、道や沿線の2市1町をはじめ、地域の皆様からのご支援をいただいているところだが、経営目標の4「地域全体と連携し地域とともに歩む鉄道であり続ける」ため、引き続き、信頼される事業運営に努めてまいらる所存。
- ・ 現在、当社においては、JR北海道様及びJR貨物様からの出向社員と当社採用のプロパー社員が一体となって、日々の安全な運行、安定的な運行とお客様サービスに取り組んでいるところ。こうした社員が将来をしっかりと見据え、誇りと働きがいを持って働き続けることができるよう、今後においても、経営理念とともに、「成長と自立」を社員全員が共有する目標として、全社一丸となって、不断の努力を怠らず前進してまいらる考え。今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしく願います。

(2) その他

《齋藤局長（道）》

- ・ 次に議題の「その他」であるが、いさりび鉄道から情報提供があると伺っているので、ご説明をいただく。

《川越社長（道南いさりび鉄道）》

- ・ 2点、報告がある。まず1点目であるが、来年度、令和7年4月より運賃改定を実施したいと考えている。沿線地域の人口減少などによる利用者減少の中で、燃料費、資材費等の上昇が続いている状況を踏まえ、将来にわたり適正な鉄道事業運営を継続するために実施しようとするもの。
- ・ 今月中を目途に認可申請をしたいと考えているので、内容については、申請のタイミングで示させていただきたい。
- ・ また、併せて精神障害者割引についても導入を検討しているところ。当社では、これまで、

身体障害者割引および知的障害者割引については、それぞれ運賃の半額とする割引を実施してきたが、精神障害者割引についても、同様に運賃の半額とする割引を来年度の運賃改定と同じ、令和7年4月から実施することを考えている。こちらについても、詳細がまとめ次第、改めてお知らせする。

- ・ 次に2点目であるが、観光列車の関係で、現在、新しいコンセプトの観光列車の運行を検討している。国の観光庁の補助事業を活用して実施するもので、道南の新しい食の素材を盛り込んだメニューを開発し、グルメに関心の高い旅行者の皆様の集客を目指した観光列車として、9月に運行を予定している。
- ・ また、この観光列車の運行を通じて、様々なメディアに沿線地域の魅力やいさりび鉄道の魅力を国内外に発信していきたい。

《齋藤局長（道）》

- ・ 観光列車の企画事業の件は、正式にアナウンスするのはいつ頃になるか。

《川越社長（道南いさりび鉄道）》

- ・ 事業については国の方で採択され、現在申請をしているところであり、近日中に発信してまいりたいと考えている。

《齋藤局長（道）》

- ・ 運賃改定については、値上げにより利用が冷え込むことも懸念の一つとしてあるかと思うので、そのようなことも考慮の上、工夫して周知していただければと思う。

《川越社長（道南いさりび鉄道）》

- ・ 承知した。

以上